# 第 132 回 火山噴火予知連絡会資料

(その7) 東北地方

平成 27 年 6 月 15 日

# 火山噴火予知連絡会資料(その7)

# 目次

<b>甫</b> ····································	
	3
気象庁 3-6	
八甲田山······	7
気象庁 7-11	40
秋田焼山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	16
気象庁 16-21、防災科研 22-24	
秋田駒ヶ岳······	25
気象庁 25-31	
鳥海山······	32
丸家/丁 32-33 要駒山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
気象庁 36-40	00
安達太良山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
気象庁 41-46	
磐梯山······	47
	52
地理院 52	52

# 岩木山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認め られない。

噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第1図) <sup>ひゃくざわひがし</sup> 百沢東遠望カメラ(山頂の南東約4km)による観測では、噴気は認められなかった。

・地震活動(第3、4図) 火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動は観測されなかった。 2013年12月頃から、主に山体の南東側、深さ15~25km 付近を震源とする深部低周波地 震が増えている。

・地殻変動(第5~7図)

GNSS 連続観測及び松代白沢観測点(山頂の西北西約5km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



第1図 岩木山 山頂部の状況(2015年4月23日) 百沢東遠望カメラ(山頂の南東約4km)による。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、弘前大学、青森県のデータ等を利用して作成した。



第3図 岩木山 一元化震源による岩木山周辺の地震活動(1997年10月~2015年4月30日) 注)2001年10月以降、検知能力が向上している。

4

注)低周波地震については、1999年9月から識別して登録を開始した。

図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがある。

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

・2013 年 12 月頃から、主に山体の南東側、深さ 15~25km 付近を震源とする深部低周波地震が 増えている。



- ・火山活動に起因する変化は認められない。
- ・2011 年 3 月 11 日以降の伸びの傾向は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられる。
- ・東北地方太平洋沖地震に伴うステップを補正している。
- ・解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・ ~ は第6図の GNSS 基線 ~ に対応。(国):国土地理院。
- ・グラフの空白部分は欠測。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がある。



# 八甲田山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。 噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

#### 概況(2015年2月~4月30日)

- ・噴気等の表面現象の状況 噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・地震活動(第2~4図) 火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動は観測されなかった。
- ・地殻変動(第5、6図)

国土地理院の広域的なGNSS連続観測や、南荒川山、駒込深沢の八甲田山を挟むGNSS連続観測で、火山活動によると考えられる変化は認められない。



第1図 八甲田山 観測点配置図 ・小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (弘):弘前大学 (東):東北大学 (青):青森県 H:国立研究開発法人防災科学技術研究所

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災 科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。



第2図 八甲田山 一元化震源による八甲田山周辺の地震活動(2008年10月1日~2015年4月30日) ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状況で経過 したが、2014年2月以降は減少している。



- 第3図 八甲田山 一元化震源による八甲田山付近の地震活動(2011年3月12日~2015年4月30日) 第2図震央分布図内の矩形域を拡大
  - ・2013年2月以降、山頂付近が震源と考えられる火山性地震が散発的に発生し始め、同年4月下旬から7 月中旬にかけて増加した。その後、地震活動は低下し、少ない状況で経過している。



<sup>・</sup>沖揚平(青森県:短周期速度型)のデータを元に、2013年6月5日から地震回数の計数を開始した。 ・図の灰色部分は欠測。 ・酸ヶ湯(東北大:広帯域型)は、2013年7月3日から観測開始。

・地震発生状況に特段の変化はみられず、高周波地震と低周波地震の発生状況、酸ヶ湯(東北大:広帯 域型)と沖揚平(青森県:短周期速度型)の上下動最大振幅とS-P時間の推移に特段の変化はみられ ない(一部欠測)。 印の地震は、山体の西で発生した第2図 印の地震。



2、3 南荒川山は 2013 年 6 月 15 日から 11 月 1 日まで臨時観測点として観測していたが、機器の 移設・更新を行い、11 月 19 日から観測を再開している。そのため、基準値を補正して接続している。



第6図 八甲田山 GNSS 観測点配置図
・小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
(国):国土地理院
GNSS 基線 ~ は第5図の ~ に対応。

# 秋田焼山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認め られない。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に 変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第2図、第3-図)

東北地方整備局が山頂の西に設置している焼山監視カメラによる観測では、2月4日と 3月8日に湯沼の噴気が一時的に噴気孔上100mとなった。それ以外の期間、湯沼の噴気は 観測されず、 <sup>ざけびぎわ</sup> 観測されず、 <sup>ざけびぎわ</sup> に経過した。

・地震活動(第3- 図、第4図) 火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動(第5~7図)

GNSS 連続観測及びぶな沢南観測点(山頂の南西約4km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学、弘前大学のデータを利用して作成した。



第2図 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状況(2015年3月8日08時40分頃) 焼山監視カメラ(東北地方整備局、山頂の西約2km)による。 ・図の赤丸実線で囲んだ部分が、湯沼の噴気で高さ100m。



第3図 秋田焼山 火山活動経過図(2010年6月~2015年4月30日)

・ 2010年6月1日から焼山監視カメラ(東北地方整備局)により観測開始。

・ 2010年10月15日から観測開始。

・2012 年 3 月 6 日 ~ 4 月 13 日と 2013 年 9 月 16 日 ~ 10 月 10 日 (図の灰色部分) は機器 障害のため欠測。



(2012年5月1日~2015年4月30日、時間値、潮汐補正済み)

・2014 年 8 月 7 日に山頂の北側約 3 km で発生した地震によりステップが見られるが、その他に火山活動による とみられる傾斜変動は認められない。

・2013 年 9 月 16 日 ~ 10 月 30 日まで機器障害のため欠測。



15

## 岩 手 山

(2015年4月30日現在)

火山性地震が一時的に多くなることもあったが、期間を通しては概ね少ない状況で経過した。その他の火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められない。 噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第1図、第2図-) 柏台遠望カメラによる観測では、黒倉山山頂から一時的にごく弱い噴気を観測したが、 岩手山山頂や大地獄谷からの噴気は観測されず、噴気活動は低調な状態が続いている。

・地震活動(第2図- ~ 、第3~5図)
火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動(第6~8図) GNSS 連続観測及び馬返し観測点(岩手山山頂の南東約4km)の傾斜計では、火山活動に よると考えられる変化は認められなかった。



- 第1図 岩手山 黒倉山の噴気の状況(2015年3月8日)
  - ・柏台遠望カメラ(黒倉山山頂の北約8km)による。

・右上の拡大図の赤丸実線で囲んだ部分が、黒倉山山頂の噴気で高さ 20m。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、岩手県及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデ ータを利用して作成した。



・ 2000 年 1 月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震を除外した回数。 (1998 年から 1999 年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震も含む) 気象庁



岩手山





第7図 岩手山 GNSS 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (国):国土地理院 GNSS 基線 ~ は第8図の ~ に対応。



第8図 岩手山 GNSS 基線長変化図(2010年10月~2015年4月30日)

- ・火山活動に起因する変化は認められない。
- ・2011 年 3 月 11 日以降の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、
  - 火山活動によるものではないと考えられる。
- ・東北地方太平洋沖地震に伴うステップを補正している。
- ・解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・ ~ は第7図の GNSS 基線 ~ に対応。(国): 国土地理院。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がある。



第9図 岩手山 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (東):東北大学 (防):防災科学技術研究所

・岩手上坊牧野(防)、岩手裾野牧野(防)は2015年1月6日より使用を開始した。



岩手山の火山活動について

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の 数値地図 50mメッシュ(標高)を使用した。

IWMV=地震計(短周期・広帯域)、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS IWSV=地震計(短周期・広帯域)、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS IWUV=地震計(短周期・広帯域)、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS

## 資料概要

#### ○ 地殻変動と地震活動

火山活動に関連するような顕著な地殻変動と地震活動は認められなかった。

#### 岩手山の傾斜変動(2014/09/01~2015/05/07)

### 岩手山の傾斜変動(2010/05/12~2015/04/30)



岩手山の傾斜変動

23

X

防災科学技術研究所

#### 表1 GNSS観測履歴

観測点番号	観測点名	図中記号	日付	保守内容
	岩手松川		2010/3/17	2周波観測開始
			2015/1/5~	デーク思告
			2015/5/19	
	岩手上坊牧野 (IWUV)		2014/9/17	2周波観測開始
			2014/11~12/14	データー部欠測等不調
			2014/12/14~	機器調査中(代替機動作中)
	岩手裾野牧野		2014/9/26	2周波観測開始
	(IWSV)		2015/2/4~	データ断発生中

めだけ

## 秋田駒ヶ岳

(2015年5月10日現在)

女岳では、2009年から拡大した地熱域が引き続きみられるが、2014年10 月以降は大きな変化は認められない。

地震活動は、一時増加することもあったが概ね低調で、地殻変動にも大き な変化はみられなかった。地熱活動が続いていることから今後の火山活動の 推移に注意が必要。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変 更はない。

概況(2015年2月~5月10日)

・噴気等の表面現象の状況、熱活動(第1~3図、第4図-)

女岳では、2009年から拡大している地熱域<sup>1)</sup>が引き続きみられている。

東北地方整備局の熊ノ台及び八合目監視カメラによる観測では、女岳の噴気活動は低調 な状態で経過した。

4月9日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、2014年4月9日及び2015 年1月21日の観測と比較して、地熱域<sup>1)</sup>の状況に大きな変化は認められなかった。

1)赤外熱映像装置による。

・地震活動(第4図-、第5、6図)

火山性地震は、5月7日に山頂付近が震源と推定される規模の小さな地震が増加し、日 回数は29回となった。それ以外の期間は、少ない状況で経過した。

火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動(第7~9図) GNSS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成した。



第1図 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状況 (2015年2月21日10時29分頃) ・熊ノ台監視カメラ(東北地方整備局、女岳山頂の南西約5km)による。 ・実線赤丸で囲んだ部分が、女岳からの白色噴気で高さは100m。



第2図 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布図及び写真と地表面温度分布1)撮影方向



2015年4月9日10時17分

2015年4月9日10時17分 天気:晴



2015年1月21日10時58分

2015年1月21日10時58分 天気:晴



2014年4月9日10時20分撮影

2014年4月9日10時20分 天気:薄曇

第3図 秋田駒ヶ岳 南東火口の状況と地表面温度分布

・上段及び下段は岩手県の協力により、中段は陸上自衛隊の協力により撮影した。

・南東火口(赤破線)及び南東火口縁外側(赤実線)の地熱域が、やや拡大しているように見えるが、 積雪や気象条件が異なることから、地熱域の状況に大きな変化はないものと考えられる。



注1) 2012年4月1日~八合目駐車場[振幅0.3µm/s以上、S-P時間1.5秒以内] ・図の灰色部分は機器障害のため欠測。



- 第5図 秋田駒ヶ岳 付近の地震活動(2003年8月~2015年5月10日)
  - ・表示条件:相数7相以上、深さフリーで決まった地震
  - ・速度構造: 成層構造を使用
  - ・2003 年 8 月より東北大学の地震計データを、2005 年 5 月より国土交通省東北地方整備局の地震計データを使用。
  - ・震源分布図中で黒の点線で囲まれた範囲は、2003年5月~6月の活動範囲を示す(東北大学の観測による)。 ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用した。



:2015年2月1日~5月10日(今期間なし)

:2003 年 8 月~2015 年 1 月 31 日

第6図 秋田駒ヶ岳 一元化震源による深部低周波地震活動(2003年8月~2015年5月10日) ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがある。

29

・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

気象庁





第9図 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測点配置図(連続観測による広域の観測)
小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
(国):国土地理院
GNSS 基線 ~ は第8図の ~ に対応。



第10図 秋田駒ヶ岳 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (東地):東北地方整備局 (東):東北大学

## 鳥 海 山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認め られない。

噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

- ・噴気等の表面現象の状況(第1図) <sup>かみごう</sup> 上郷遠望カメラによる観測では、噴気は認められなかった。
- ・地震活動(第3図) 火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。
- ・地殻変動(第4~6図)

GNSS 連続観測及び観音森観測点(山頂の西北西約 10km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



第1図 鳥海山 山頂部の状況(2015年4月23日) 上郷遠望カメラ(山頂の北西約10km)による。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成した。



第2図 鳥海山 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (東):東北大学



第3図 鳥海山 一元化震源による鳥海山周辺の地震活動(1997年10月~2015年4月30日) 注)2001年10月以降、検知能力が向上している。

注)低周波地震については、1999年9月から識別して登録を開始した。

・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更する事がある。

・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。





## 栗 駒 山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認め られない。

噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第1図) 大柳遠望カメラによる観測では、噴気は認められなかった。

・地震活動(第2~4図)
火山性地震は少ない状況が続いており、火山性微動は観測されなかった。
なお、栗駒山周辺では、2008年6月14日に発生した「平成20年(2008年)岩手・宮城
内陸地震」(M7.2)の余震域内で地震活動が続いている。

・地殻変動(第5図、第7、8図)

GNSS 連続観測及び耕英観測点(山頂の南東約4km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



第1図 栗駒山 山頂部の状況(2015年4月23日) ・大柳遠望カメラ(山頂の南東約20km)による。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成した。



第2図 栗駒山 日別地震回数(2006年10月~2015年4月30日)

・2006 年 10 月 12 日から旧耕英観測点 (山頂から南東約 4 km) で観測開始。

1) 2008 年 6 月 14 日から 7 月 2 日 18 時 (図の灰色部分)まで「平成 20 年(2008 年)岩手・宮城内陸地 震」の影響により観測不能となっていた。

2) 2008 年 7 月 2 日 18 時から小安(おやす)観測点(山頂から北西約 10km)で観測開始。

- 3) 2008年12月4日から旧耕英観測点が観測再開。
- 4)2010年9月1日から耕英観測点(山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所)で観測開始。



第3図 栗駒山 一元化震源による栗駒山周辺の地震活動(1997年10月~2015年4月30日) 注)2001年10月以降、検知能力が向上している。

37

・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

<sup>・</sup>図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがある。





第6図 栗駒山 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁の観測点位置を示す。



第7図 栗駒山 GNSS 観測点配置図 小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (国):国土地理院 GNSS 基線 ~ は第8図の ~ に対応。



# 安達太良山

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認め られない。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に 変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第1図、第2図-) 若宮遠望カメラ(沼ノ平火口の西北西約8km)による観測では、沼ノ平火口付近では、 噴気は認められなかった。

・地震活動(第2図- ~ 、第3、4図) 火山性地震は少ない状況が続いており、火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動(第6~8図)

GNSS 連続観測及び沼尻山甲観測点(沼ノ平火口の西約4km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



第1図 安達太良山 沼ノ平火口周辺の状況(2015年4月23日)

・若宮遠望カメラ(沼ノ平火口の西北西約8km)による。

・実線赤丸で囲んだ部分が沼ノ平火口の白色噴気で高さは噴気孔から 40m。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成した。



第2図 安達太良山 火山活動経過図(1965年7月~2015年4月30日)

- ・ 注1)2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年2月以降は全 ての時間で観測したデータによる高さ。
- ・ 注2) 1998 年から計数基準を S-P5 秒以内より S-P2 秒以内に変更した。
- ・ ~ 注3)1999年10月に勢至平観測点を新設し、基準観測点を塩沢観測点(沼ノ平火口から 東北東約6km)から勢至平観測点(沼ノ平火口から東北東約3km)に変更した。



・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがある。

・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。

43

安達太良山



第5図 安達太良山 観測点配置図

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (東):東北大学



第6図 安達太良山 GNSS 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸() (国):国土地理院 GNSS 基線 ~ は第7図の ~ に対応。

)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。



- ・グラフの空白部分は欠測。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がある。
- \*幕川温泉観測点の機器更新。



(2013 年 5 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日、時間値、潮汐補正済み) ・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に 変更はない。

概況(2015年2月~4月30日)

・噴気等の表面現象の状況(第2図、第3図-)

剣ケ峯遠望カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは 100m以下で、噴気 活動は低調な状態が続いている。

・地震活動(第3図- 、 第4、5図)
火山性地震は少ない状況で経過した。
火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動(第6~8図)

GNSS 連続観測及び裏磐梯高原観測点(山頂の北約4km)の傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。



47

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成した。



注 2 )1998 年より計数基準を S-P 5 秒以下から S-P 2 秒以下に変更した。

48

気象庁

磐梯山



注) 2001 年 10 月以降、検知能力が向上している。

・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがある。

・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50m メッシュ (標高)」を使用した。

49





第7図 磐梯山 GNSS 観測点配置図 小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (国):国土地理院 GNSS基線 ~ は第8図の ~ に対応。



51

気象庁

地	活火山名 衛星進行方 (南行/北行	衛星進行方向 Bpe	Bperp	観測方向	向,时在《》	観測日		期間(口)	*11=== 4= 田	容判の方毎
方		(南行/北行)	(m)	(右/左)	八羽円()	マスター	スレーブ	判問(ロ)	刊記和木	貝科の有無
	恐山	北行	+ 128	右観測	32.5	2014/12/11	2015/2/19	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	岩木山	北行	+ 313	右観測	36.2	2014/10/21	2015/3/10	140	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	八甲田山	北行	+ 128	右観測	32.5	2014/12/11	2015/2/19	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	十和田	北行	+ 128	右観測	32.5	2014/12/11	2015/2/19	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	岩手山	北行	+ 128	右観測	32.5	2014/12/11	2015/2/19	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	自海山	北行	+ 11	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
東	ぎる日	北行	+ 304	右観測	36.2	2014/10/21	2015/3/10	140	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
北地	鳴子	北行	+ 304	右観測	36.2	2014/10/21	2015/3/10	140	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
方	肘折	北行	+ 304	右観測	36.2	2014/10/21	2015/3/10	140	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	肘折	北行	+ 11	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	蔵王山	北行	+ 304	右観測	36.2	2014/10/21	2015/3/10	140	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	吾妻山	北行	+ 11	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	大穴火口付近では、衛星に近づく変動が見られる。	0
	安達太良山	北行	+ 11	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	磐梯山	北行	+ 11	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	沼沢	北行	- 10	右観測	39.7	2015/2/15	2015/4/12	56	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	

## 東北地方の火山のSAR干渉解析結果